

開所 20 周年記念イベント

親子で楽しい時間を過ごしましょう。申込みをお待ちしています！

☆新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、定員を設けて完全予約制で開催します。

よしとの紙芝居



『楽しい』をテーマに、プロのアーティストとして活動している、松江市在住の「よしと」さん。

日時：11月6日(土)

① 10:00～11:00

② 14:00～15:00

要予約

場所：市立保健センター 大ホール

定員：各回親子 25 組程度

※市内にお住まいの親子に限ります

予約受付：10月26日(火)～11月5日(金)

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては中止する場合があります。

【申込み・問い合わせ先】

市立子育て支援センター ☎ 22-2851

日本遺産のまち益田の歩き方

第15回 グラントワと益田元祥像

益田元祥は、益田にいた最後の益田氏当主です。益田藤兼の子で、永禄11(1568)年の元服(成人)に際して元就から「元」の字

る文章)が記されています。画面上方には、毛利元就の菩提寺洞春寺の第4世如天玄勲(1651年没)による賛(描かれた人物を讃える文章)が記されています。

石見美術館が所蔵する中世の益田に関する文化財が、絹本着色益田元祥像で、重要文化財に指定されています。作者は狩野永徳の父の狩野松栄で、安土桃山時代の狩野派を代表する絵師です。そのような人物に依頼できることが、益田氏の地位や文化性の高さを物語っています。

石見美術館では、2014年に「益田家文書里帰り展」、2017年に「石見の戦国武将展」、2019年に「益田氏VS吉見氏展」といった中世の益田や石見についての企画展示も開催され、豊富な古文書や美術品が広く紹介されました。

島根県芸術文化センター「グラントワ」は、石見地域の芸術文化拠点として、2005年に開館しました。県立石見美術館と県立いわみ芸術劇場の複合施設で、美術館での展覧会や劇場での公演を通じて、芸術を身近に感じられる場となっています。



重要文化財 狩野松栄筆「益田元祥像」桃山時代 県立石見美術館所蔵

場 有明町5番15号 石見交通バス各路線のバスグラントワ前バス停すぐ

益田元祥のみならず、中世の益田の魅力を物語る逸品です。

をもらい、元就の二男吉川元春の娘と結婚しました。以後、毛利家との関係をさらに深めていきます。このため、慶長5(1600)年の関ヶ原の戦い後、萩に移る毛利家に従って益田の地を離れることになりました。絵自体に注目すると、堂々とした騎馬武者像で、鎧、兜、鎧、鞍、刀の鞘など、いたるところに益田家の家紋「上り藤に久」が見られます。

鞍の下には虎の皮が敷かれています。虎皮は朝鮮半島から輸入したものと考えられ、元祥の元服の際に、毛利元就・輝元にも贈っており、彼らを驚かせました。虎皮は位階が五位以上の人しか使えないものですが、元祥は文禄5(1596)年に従五位下になっていきます。

【問い合わせ先】

益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会 文責：市文化財課 ☎ 31-0623